

総覧 縄文土器 —小林達雄先生古稀記念企画—

小林達雄 編著 『総覧 縄文土器』 刊行委員会

縄文土器109 様式の各説とテーマ別の特論を総勢169 名の気鋭の研究者により解説、総覧する。主要な遺跡・文献等の実用的な情報を可能な限り掲載。縄文土器の調査研究に必携の最高水準の総合的図書。

ISBN 978-4-944163-37-3 C3021

本体価格 15,000 円/A4判 1,332p 巻頭カラー8p

小林達雄監修 未完成考古学叢書

(1) 縄文時代の地域生活史

山本 典幸 著

五領ヶ台式土器様式の編年と系統、土器様式の類似性とコミュニケーションシステム、縄文土器の空間変異のあり方など、従来にない視点、緻密な論理で展開する。

ISBN 978-4-944163-15-1 C3520

本体価格 2,500 円/B5判 259p

(2) 琉球縄文文化の基礎的研究

伊藤 慎二 著

琉球縄文文化、沖縄編年の諸問題など待望された琉球縄文研究の新境地。沖縄の縄文時代の歴史がその後の琉球文化の言語学、民族学上の主体性確立へとつながるのかをも示唆する。

ISBN 978-4-944163-18-2 C3321

本体価格 2,500 円/B5判 183p 巻頭カラー2p

(3) 縄文時代の生業と集落

小川 岳人 著

社会学、文化人類学、民俗学、民俗考古学などの成果から、縄文時代の生業・社会の解明に有効な方法論や具体的接近法を探る。国際的な場でも充分議論に堪え得る縄文研究の新天地。

ISBN 978-4-944163-19-9 C3321

本体価格 2,500 円/B5判 167p 巻頭カラー2p

(4) 石槍の研究

白石 浩之 著

旧石器時代から縄文時代草創期の石槍について、日本列島内の多くの事例を可能な限り網羅的に集成を行った。石槍の出現時期の特定、編年、流通ネットワーク、そして石槍を保有する社会の解明まで踏み込む。

ISBN 978-4-944163-21-2 C3321

本体価格 4,500 円/B5判 431p 巻頭カラー2p

(5) 縄文時代貯蔵穴の研究

坂口 隆 著

「貯蔵」とは人類史上極めて重要な行為。1980 年代以降の考古学調査の成果をもとにその変遷、植生史、貯蔵穴、貯蔵空間からみた集落構成の地域性等を検討。縄文文化の狩猟採集を分析するうえで必読の書。

ISBN 978-4-944163-26-7 C3321

本体価格 3,000 円/B5判 207p

(6) 縄文時代の社会変動論

阿部 昭典 著

土器器種の多様化、住居形態、複式炉の出現・発展・消滅、遺跡数の増減、環状列石などの分析を通し、東日本全域を対象に縄文時代中期末葉～後期前葉の文化的変化の本質に迫る数々の問題点を論及する。

ISBN 978-4-944163-39-7 C3321

本体価格 3,400 円/B5判 298p 巻頭カラー4p

(7) 縄文土器の文様構造

石井 匠 著

岡本太郎の縄文土器論を検証すべく縄文土器文様を三次元レベルから分析した未踏の分野を開拓した画期的な論文。可視範囲面、正面性の発見、螺旋構造への洞察など縄文土器文様の本質の解明に迫る。

ISBN 978-4-944163-40-3 C3321

本体価格 3,000 円/B5判 216p

(8) 縄文土器の文様生成構造の研究

今福 利恵 著

土器文様生成構造の情報抽出の方法論を明確に用意し、主に勝坂式土器、火炎土器、曾利式土器文様を中心に分析し、具体的な遺跡間関係を明らかにした。まさに現時点での研究の一頂点を極めている論文といえる。

ISBN 978-4-944163-41-0 C3321

本体価格 3,500 円/B5判 317p

UMpromotion

(株) アム・プロモーション

東京都港区高輪2-1-13-205 〒108-0074
TEL03-5449-7033 FAX03-5449-2023

<http://www.musee-um.co.jp>

書名／著者、編者等	内容	本体価格 (税別)	判型 / 頁等
縄文ランドスケープ 小林達雄 編著	縄文人のムラの中に身をおき、彼らが見た風景、景観を遺跡研究を通して追体験しようと果敢に挑んだ。縄文研究者29人の3年に及ぶ渾身の論文集。	4,667円	B5判 331p カラー
小林達雄対談集 ミュージアムの思想 小林達雄 著	日本には多数のミュージアムがあるが、そこは本当にきちんと機能しているのだろうか。考古学者で縄文時代研究の第一人者である小林達雄（國學院大學教授）が各界の専門家たちと博物館や美術館のあるべき姿について語り合った。	1,429円	A5判 224p
日本人は爆発しなければならぬ 復刻増補 日本列島文化論 岡本太郎、泉靖一 著	岡本太郎、幻の著書とされていた1970年刊行の『日本列島文化論 対話岡本太郎・泉靖一』。初版だけで絶版となっていた本書を脚注や解説、写真などを加えて復刻増補版とした。縄文、メキシコ、沖縄、東北の文化についての丁々発止のやりとりは痛快で、その論は現在でも新鮮な響きをもって読者を魅了するに違いない。万国博覧会の準備のさなかに行われた対談で、その時代背景も興味深い。	1,800円	A5判 224p
改訂増補ミュージアムスター ディーガイド 学習目標と学芸員試験問題 大堀哲 監修、水嶋英治 編著	学芸員が何をどのように学べばいいのか。端的にしかも参考書ふうなマネジメントから職業倫理観まで言及する。第5章～第7章が新たに加わり、前版にはなかったミュージアムの展示や活動風景などの写真が随所に入り、よりわかりやすくなった。	1,800円	A5判 196p
こどものためのワーク ショップ ～その知財はだれのもの？ ワークショップ知財研究会 編	日本が知財立国をめざしている現在、ワークショップをとりまく知的財産に関する啓発も不可欠である。本書では、ソフトの権利保護だけでなく、品質保持のためのノウハウを提供し、さらに自由な活用を保障する「ワークショップコミュニティ」の創出を提言する。	1,810円	A5判 巻頭カラー 5p/本文 191p
歴史展示のメッセージ 歴博国際シンポジウム「歴史展示を 考える—民族・戦争・教育」 国立歴史民俗博物館 編著	歴史展示が避けては通れない民族と戦争の問題、そして歴史展示の可能性の鍵を握る教育の問題について深く考察し、提言する。歴史展示を考えるうえでかかせない一冊。	3,000円	A5判 354p
歴史展示とは何か 歴博フォーラム歴史系博物館の 現在・未来 国立歴史民俗博物館 編	正面から語られることが少なかった歴史系の展示について広く議論を行い、各報告では歴史系博物館の展示について幅広い視点から深く考察し、提言した。歴史系はもちろんな博物館の展示の今後のあり方を探る一冊である。	2,800円	A5判 252p
愛知のミュージアム公式ガ イドブック 愛知県博物館協会、名古屋市 博物館 編	愛知県博物館協会に加盟する125館と、非加盟館125館の情報を満載！愛知県博物館協会のワーキンググループが、展覧会「いこまい！愛知のミュージアム」の図録として編集した、広域ガイドブックがついに登場。	1,300円	A5判 222p
牧野富太郎植物画集 高知県立牧野植物園、 (財)高知県立牧野記念財団 編著	高知県が生んだ世界的な植物分類学者牧野富太郎は日本の植物分類学の基礎を築き、植物学史に大きな足跡を残した。博士は植物図の才能にも秀でた。これら貴重な植物図を収蔵する牧野植物園が、博士が発見命名した植物を中心に精選した画集。巻末に解説あり。	1,500円	A4判 64p
チャスキ 38号/39号/40号 41号/42号 アンデス文明研究会会報 08年12月から、年2回発行	アンデス文明研究会とは、古代アンデス文明ならびにメソアメリカ文明に興味を持つ人々による研究会である。毎月1回、考古学者などの専門家を招いて、定期講座を開催している。寄稿者は、研究者や学生、会員と幅広く、アンデス・マヤに関する様々な情報が集約された一冊である。	各 1,000円	A4判 35p